

バングラ不思議発見～ぼく・わたしたちの可能性～

実践場所	静岡県	三島市立長伏小学校	実践者	諸井 法子
対象	小学校5年生	時間数	5時間	
担当教科	小学校5年生	実践教科	総合・道徳	
ねらい	1 バングラデシュという国について知り、比較しながら自分たちの生活を振り返る。 2 バングラデシュの実情と、日本との関わりを知り、自分たちの「可能性」について考える。			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	【バングラデシュについて知ろう】 〈フォトランゲージ〉 「バングラ不思議発見」 ①バングラデシュの位置・人口・広さなどの基本的な情報を確認する。 ②バングラ BINGO でバングラデシュの文化や物に触れる。 （指導者研修会報告用に作成したバングラ BINGO にスライドを足して作ったパワーポイントを使用）		・パワーポイント ・バングラ BINGO ・BINGO シート
	2	【生活を比べてみよう】 〈分配円〉 「バングラライフとジャパンライフ」 ①自分の1日の生活を振り返ろう。 ②バングラデシュの子の1日の生活を見てみよう。 ・各項目でポイントとなるところは隠して、バングラデシュの子の1日の生活をクイズ形式で考える。 ③自分の生活と比べてみよう。		・個人用の1日の生活シート(分配円) ・バングラデシュでアンケートをとった平均的な1日の生活表の拡大図
	3	【課題について考えよう】 〈フォトランゲージ〉 「バングラデシュの色々な姿～その1 ゴミ問題～」 ①写真から考えよう。 ・ゴミ山の上を歩く人たちの足元を隠し、想像して絵を描く。 ・実際の写真を見せて、気がついたことを書く。 ②日本との関わり ・支援や環境教育についてパワーポイントや動画を見る。		・動画 ・DVD『『向日葵と太陽』～発展という名の太陽に向かって』
	4	【バングラデシュの色々な姿～その2 ストリートチルドレン～】 ①笑顔になる時ってどんな時？ ・たくさんの笑顔の写真を見て、自分が笑顔になる時はどんな時か考える。 ②ランキングづけをしよう。 ③写真から考えよう。 ・笑顔のストリートチルドレンの写真を最初は背景を隠して見て、その後背景を出して、ストリートチルドレンについて知り、考える。		・パワーポイント
	5	【自分の可能性】 エクマツラの渡辺さんの生き方に触れ、自分の可能性について考える。(2月の参観日に予定)		・パワーポイント ・動画
成果	・バングラデシュの映像や実物を見たり、現地で見えてきたことを聞くことで、海外への興味関心が高まった。 ・自分たちの生活と比較することで、文化の違いや習慣の違いなどにも気づくことができた。 ・途上国の課題に向かい合い、自分たちができることについても考えることができた。			
課題	途上国の課題に向かい合ったことで、自分たちにできることを考えられたが、「やっぱり日本がいい」と感じる子も出たので、日本にはない途上国のよさを伝えるのは、年齢がもう少し上がらないと難しいのかもしれないと感じた。			
備考	第1時は土曜参観日に行ったので、たくさんの保護者の方や中学生にもバングラデシュの様子などを見てもらうことができた。			

1 はじめに

教師海外研修に参加したのは、3・11の東日本大震災で自分の役割について振り返ったことがきっかけだった。教師という職業は、子どもたちの可能性を広げていく仕事であること、そして自分が多くのものを見聞きし、それを伝えていくことが可能性を広げていくことにつながるのではと考えた。

そして、研修で訪れたバングラデシュでは、本当に多くのことを見聞きし、感じてきた。中でも、一番感じた人々の温かさやパワーは、今の日本が忘れてしまったことのような気がする。異文化を伝えながら、人として大事な温かさや自分の可能性、自分のできることについて考えて欲しいと願い授業実践を行った。

2 授業実践

第1時「バングラデシュってどんな国？」

① パワーポイントを使い、バングラデシュの位置や人口面積などについての確認。

最初に、バングラデシュの位置について、地図上で確認した。私が行く前に「インドの隣の国に行ってくるんだよ。」と話していたこともあり、すぐにバングラデシュを地図上で発見することができた。

人口や面積については、日本と比較しながら紹介した。



（児童の反応）

- ・日本の半分くらいしか面積がないのに、日本よりも多い人が暮らしているなんて大変だね。
- ・人口密度がすごく高いんだね。日本の倍ってことだね。
- ・とってもたくさんの人が住んでいるんだね。

② 指導者報告会のためにチームで作成した「バングラ BINGO」にスライドを足して作った BINGO を使い、バングラデシュの物や文化に触れる。

（児童の反応）

- ・「リキシャ」って人力車みたいだね。
- ・カレーを食べるからインドみたいに、「ナン」が主食だと思ったのに、日本と同じお米をよく食べるなんてびっくり。
- ・草からバッグができるなんてすごいね。

答え合わせをしながら解説を加えていったが、自分たちの知っていることと比較しながら、楽しんでビンゴに取り組み、興味津々で話を聞いていた。

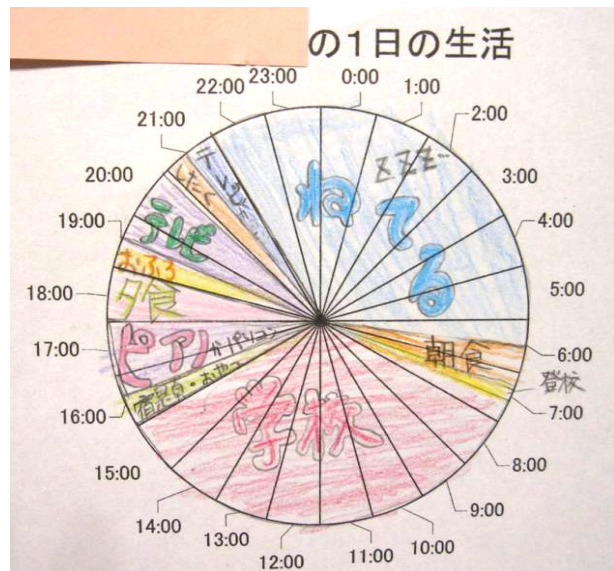
第2時「生活を比べてみよう」

① 分配円に自分の1日の生活をかいて、振り返る。

24時間表記の分配円のワークシートを配布し、自分たちの1日の生活を振り返り、色分けして記入した。5年生で実施したが、記入の仕方がわからないことが予想されたので、拡大したものを使って解説しながら記入していった。



↑書き方を解説



↑児童の作成した「自分の1日の生活」

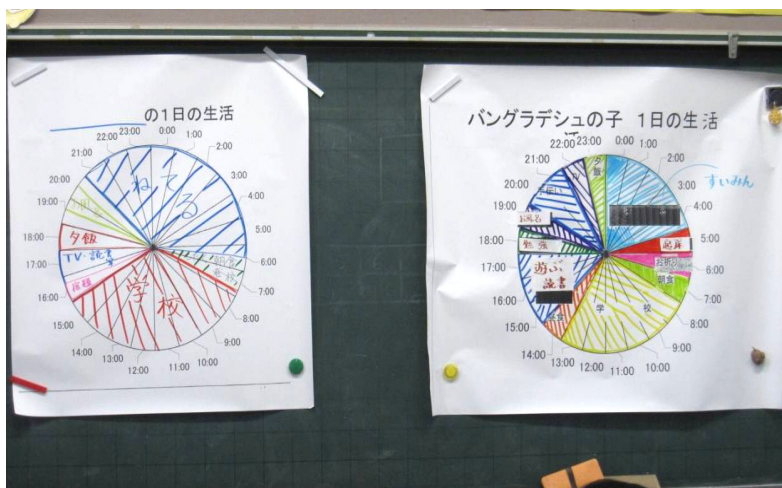
(児童の反応)

- ・学校にいる時間って寝る時間と同じくらい多いんだ。
- ・家で起きている時間って学校にいる時間より少ないな。
- ・家での勉強は、ちょっとしかしてないや。
- ・テレビを見ている時間が多いな。

自分たちの生活を分配円に書くことによって、何に時間を多く使っているのかなど、個々に分析したり、生活を振り返ったりしていた。

②バングラデシュの子の1日の生活を見てみよう

自分たちの生活を振り返ったところで、バングラデシュの5年生の1日の生活表(実際に現地でアンケートをとった平均的なもの)をポイントになるところだけ隠して提示しクイズ形式で考えた。(ポイントとした言葉は「お祈り」「夕飯」「学校」「勉強」「手伝い」で、日本との違いが大きいところにした。)



(児童の反応)

- ・寝る前は、何だろう？勉強かな？
- ・ずいぶん遅くまで起きているんだな。
- ・朝起きるのが早いな。でも、その後にすることがわからないな。お手伝いかな？
- ・朝ごはんの後は、学校だと思うけど、学校にいる時間が短いな。いいなあ。

自分たちの生活と比較しながら、隠してある項目について考え発表していた。「学校」「勉強」は、すぐに意見が出たが、他の項目はなかなか出ず、「お祈り」に関しては最後まで分らなかった。

答えを出しながら、学校が短い理由や学校の制度が日本と違うことや、時計がなく「お祈り」の合図である「アザーン」というものを基準に、生活をしていることなどの解説を加えていった。

③自分の生活と比べてみよう

(児童の感想)

- ・お祈りや睡眠時間が少なかったり、日本ではめずらしいことばかりでびっくりした。でも、私はやっぱり日本がいいです。
- ・日本では、寝てる時間と学校の時間が長いけど、バングラデシュでは、寝てる時間と学校の時間が短いことがわかった。お祈りの習慣があることもわかった。
- ・起きる時間は早いのに、寝る時間はとても遅い。学校が2部に分かれていることは知らなかった。
- ・睡眠時間が短くて驚いた。一番びっくりしたのは、夕飯を23時に食べていて、日本と違うなと思った。
- ・バングラデシュの子は、お祈りをするのにびっくりした。全然1日の生活が違うのですごいと思いました。お手伝いもして、えらいと思いました。改めて生活が違うことがわかりました。
- ・バングラデシュは日本より寝てる時間が少ないし、夕飯を食べる時間が遅い。学校に前半・後半があるなんて初めて知った。

自分たちの生活と比べながら、バングラデシュの習慣や制度について知ることができた。

第3時「バングラデシュの色々な姿～ゴミ問題～」

①写真から考えよう

1日の生活を比較した際に、子どもたちから学校の様子や街の様子などが見てみたいという声が多くあがった。バングラデシュの様子が分かるようにそれらも混ぜたスライド写真を次々と見せて、解説をしていった。色々な写真を見てバングラデシュの様子についてイメージがふくらんできたところで、ゴミ山でゴミを拾っている写真の背景を隠したものを見せて、背景がどうなっているか、実際に描いてみた。



↑ 公立の小学校



↑ 教室の中



↑ チョーク&黒板消し



↑ チャイム代わりの鐘



↑ PTI 朝礼(お祈り)



↑ お祈りする人たち



↑ 市場



↑ 肉をさばいた後



↑ 果物を運ぶ人

この人たちは、どこにいて何をしていますでしょうか？
絵をかいてみよう。



児童の描いた絵



児童の描いた絵



児童の描いた絵（28人中）

- ・畑仕事（8人）
- ・川で魚をとっている（8人）
- ・田んぼで仕事（7人）
- ・ゴミを拾っている（4人）
- ・ゴミを捨てている（1人）

②日本との関わり

その後、背景を見せてゴミ山だとわかると、とても驚いていた。写真だけでは分かりづらいので、実際に撮影した動画を見せると、カラスやハエの多さ、そしてゴミ山の高さ、ゴミがそのまま捨ててあることにもびっくりした様子だった。ゴミの最終処分場だという説明をし、ゴミ収集をして運ばれてくる過程をスライドで見せた後、日本との違いについて考えた。



（児童の反応）

- ・色々なゴミがまざって捨てられているよ。すごいにおいがしそう。
- ・ゴミがビニール袋に入れられていない。全部そのまま捨てているんだ。
- ・手でやっているよ。汚いのに。マスクもしている。くさいんだね。
- ・普通の服を着た人たちが、作業をしているね。裸足だよ。大丈夫なのかな。
- ・ゴミが燃やされていないね。日本は燃やした灰を捨てているよね。
- ・最終処分場は、日本のように建物がないね。だから燃やしていないのかな。
- ・分別していないみたいだね。

そして、JICA バングラデシュ事務所で作成された DVD『向日葵と太陽』の「環境教育」についての動画を見て、日本の支援の様子やそれに伴うバングラデシュの変化について説明をした。

日本からのしえん



ゴミ収集車 100台



ゴミ箱を使うことを
広める

(児童の感想)

- ・ゴミ収集車に日本のマークがついているね。
- ・ゴミをゴミ収集車に手でやっているとは思わなかった。
- ・ゴミ箱がなかったなんて初めて知った。
- ・分別や、ゴミ箱のことを子どもが大人に教えていたのにびっくりした。
- ・ Bangladesh はゴミ問題が大変だけど、日本がゴミ収集車を支援したのでよかったと思った。
- ・日本みたいにゴミを集めて燃やすのがないからかわいそうだった。

第4時「Bangladesh の色々な姿～ストリートチルドレン～」

①笑顔になるってどんな時？

スライドを見ながら、自分の生活を振り返って、笑顔になる時はどんな時か考える。

(児童の様子)

- ・うれしい時 (12人) ・楽しい時 (8人) ・欲しいものを買ってもらった時 (4人)
- ・いいことがあった時 (2人) ・遊んでいる時 (1人) ・おいしいものを食べた時 (1人)



楽しい時



友達といる時



もらった時



できた時



うれしい時

②ランキングづけをしよう！～笑顔になるのに大切なことは何だろう？～

「食べられる」「家がある」「家族がいる」「友達がいる」「お金がある」「病院へ行ける」「学校へ行ける」の7つの項目を示し、笑顔になるために大切だと思う順に、個人でナンバー3までランキングをつけた。

【笑顔になるのに大切なことランキング】(28人)

- 1位…家族がいる(28) 2位…友達がいる(24) 3位…お金がある(15) 4位…食べられる(12)
- 5位…病院に行ける(3) 6位…家がある(2) 7位…学校に行ける(0)

グループとしてのランキングをつける中で、自分のランキングを発表し意見交流した。

③写真から考えよう

写真の子はなぜ笑顔なのだろう？背景を考えてみよう。



（児童の反応）

- ・服着てないよ。ズボンしかはいてないじゃん。
 - ・はだしだよ。
- だからきっとまわりは・・・

- ・ゴミ捨て場
- ・道路
- ・駅
- ・不良がいる
- ・ホームレスがいる
- ・友達がいる



背景を見せると、「普通の道路にいるよ。でも、上は服を着てないね。」

道路で生活したり働いたりしていることを説明。そういう子どもたちを「ストリートチルドレン」ということを伝えた。家族や社会から守ってもらえず、自分の力でお金を稼いで食べる物を得ている状態だということ、家がなく道路で寝たり起きたりしていること、中には家族がいない子がいること、などを説明した。

そう考えると、みんなで考えた「笑顔になるのに大切なことランキング」の中で、自分たちが一番大切だと考えたものが当てはまらないことに気づき驚いていた。

（児童の感想）

- ・世界にはストリートチルドレンの子がいるのを初めて知りました。これを見て、家族は大切だと学んだ。
- ・家族がいて病院で治療できて、学校に行くのが普通だと思っていたけど、先生の話聞いて、自分は幸せなんだと思った。
- ・家族もないし、家もないなんてすごくかわいそうだなと思った。ぼくたちは、ちゃんとした環境で暮らしているが（それが）当たり前じゃないのは、すごくかわいそうだなと思った。
- ・家がなく、家族もいなく、学校にも行けず、そんな子がいるなんて思わなかった。とてもかわいそうだった。
- ・ストリートチルドレンたちが、こんなに貧しく暮らしていてかわいそう。私たちは恵まれているなと思った。友達もいるし、家族もいる。家もあるし、食べられる。
- ・ストリートチルドレンのことを聞いたりして、自分がどれだけ幸せな生活をしているかが改めて実感できたし、日本に生まれてよかったと思った。
- ・バングラには、それほど貧しい子はいないと思っていたけど、こんな貧しい子もいるんだと思った。自分も今のままではだめで、そういう子がいるのに私はもっとちゃんとやらないと思った。
- ・ぼくは、毎日当たり前のご飯を食べて当たり前のように布団で寝ている。しゃべれるし、字も書けるから、しっかりやりたい。

第5時「ぼく・わたしたちの可能性～渡辺大樹さんとエクマツラ～」

最後に、エクマツラの渡辺大樹さんと子どもたちについての道徳の授業を実施予定。

子どもたちの「可能性」を広げることに少しでもつながるならという渡辺さんの考えを伝え、自分たちの可能性、自分たちにできることを考えられるようにしていきたい。

3 終わりに

バングラデシュに肯定的に出会い、文化や習慣の色々な違いが国によってあるということ子どもたちに味わって欲しいという気持ちと、それだけではなく課題についても理解し、自分たちができることについて考えて欲しいという気持ちから、授業実践を行ってきた。どちらも子どもたちに伝えられたと感じるが、どちらかというマイナスイメージが子どもたちには強く残ってしまったような気がする。本当は、自分の感じてきた「先進国にはない途上国の温かさ」まで伝えたかったが、そこまでは至らなかった。それを伝えられるように、今後とも授業実践をしていきたい。